

電気特性のその場測定を可能にした 化学状態分析とマイクロイメージング複合装置

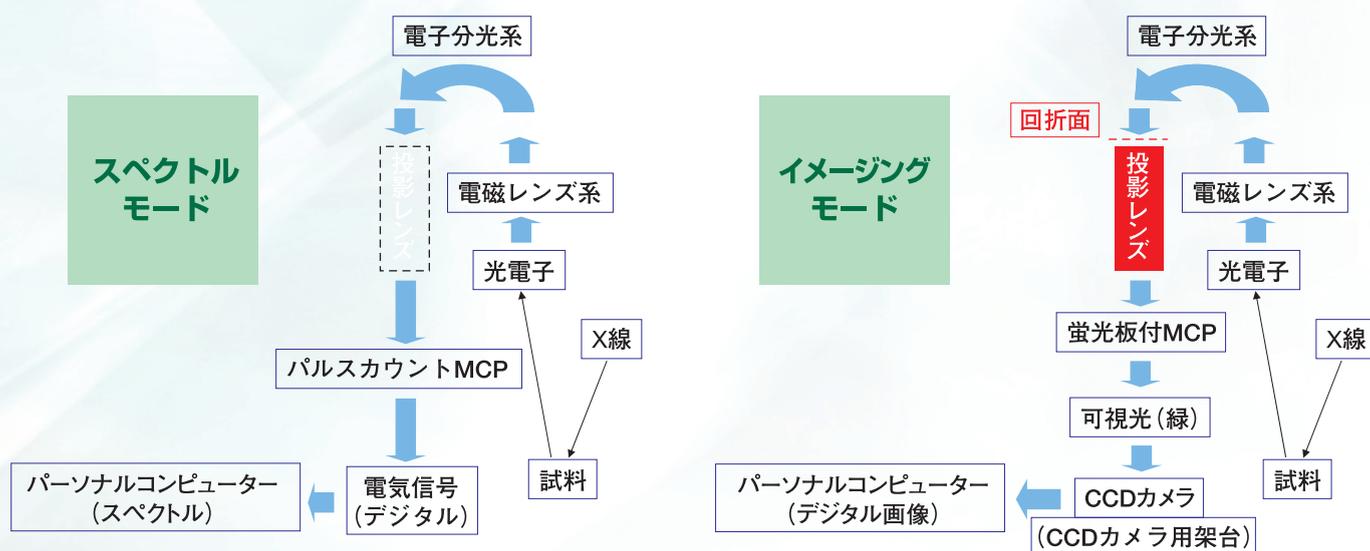
Review PEEM

—北海道から発信します—

ReviewPEEMは北海道大学、函館地域産業振興財団・工業技術センター、株式会社菅製作所、早坂理工株式会社、日本電子株式会社、株式会社タナカによる経済産業省 地域新生コンソーシアム研究開発事業「観察・化学分析・電気特性測定が同時に可能なX線顕微鏡の開発」の成果を元に、起業した株式会社北海光電子を中心に商品化された装置です。

放射光施設に持ち込まねば困難であった化学状態のマイクロイメージングをラボユースで可能にし、XPSのスペクトル分析との切替も容易です。独自開発の電気計測機能（特許第4064357号）による有機・無機電子デバイスの微視的な化学状態分析のみならず化学、材料、触媒、環境など幅広い用途に適します。

特にステージやX線銃を走査させて画像を構築するマッピングに比べ、イメージングは迅速に可視化できるため、反応や変化といった動的観察を可能にします。



2007年ノーベル化学賞

ドイツ、マックスプランク機構フリッツハーバ研究所のゲルハルト・エルトル名誉教授（博士）は、表面化学という分野を切り開いた功績により、2007年ノーベル化学賞を授与されました。博士はPEEM（光電子放出顕微鏡）を開発し、表面の化学過程を動的に観測しました。今回の授賞はこれからのPEEM時代の幕開けを予感させます。